

年頭のあいさつ



読谷村議会議長
新垣 修 幸

村民の皆様、新年明けましておめでとございます。

平成25年の年頭にあたり、読谷村議会を代表致しまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。村民の皆様におかれましては、益々健康で希望に満ち溢れた輝かしい「巳年」を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の国内情勢は長引く景気低迷の中、国民所得の減少や雇用の縮小など、未だ国民生活は厳しい状況下にあります。また、北朝鮮による「人工衛星」と称する弾道ミサイルの発射が二度もあり、沖縄への直接的な被害等はなかったものの、県民の命を脅かすできごととなりました。一昨年の東日本大震災以降、東北地方では地震が相次いでおり、昨年末にもM7.3、最大震度5弱を記録する地震が発生し、未だ

東北地方の復旧復興や不安の解消はなされておりません。東日本大震災を受け、本村議会では総務常任委員会（6名）や、昨年4月から施行した政務調査費を活用し議員9名が7月に被災地の現場視察調査を実施致しました。被災された方々から当時の被害状況や地震、そして津波の恐怖等を直接聞く事ができ、本村においても、災害に対する備えを早急に整えるべきであると再認識致しました。この視察調査で得た見聞を今後の本村の防災対策に活かして参りたいと思います。

米軍基地問題に関しては、オスプレイ配備に反対する県民大会や県内市町村の決起大会の開催、また、読谷村議会においてもオスプレイ配備に反対する意見書・抗議決議を日米両政府

の関係機関へ提出し、懸命に村民・県民の声を伝えたにもかかわらず、普天間基地へオスプレイが強行配備され、村民・県民の思いが踏みにじられる結果となりました。また、沖縄市で米兵による集団女性暴行致傷事件が10月に発生し、ますます県民の米軍基地への憤りが高まった矢先に、外出禁止令も発令されている中、11月に再び米兵による住居不法侵入・傷害・器物損壊事件が本村にて発生し、村民・県民の怒りは極限に達しました。二度と蛮行極まりない事件等が発生しない様、村民の皆様が安全・安心して暮らせる村づくりの全力で取り組んでいく所存でございます。

昨年は台風の当たり年で、中でも9月に襲来した台風17号は県内各地に大きな被害をもたらし、本村においても3日間の停電により、生活にかなりの支障をきたしました。今回の台風を教訓に、少しでも被害が減災できるよう、議会としても議論を重ねてまいります。

11月16日には衆議院が解散、12月16日には総選挙と目まぐるしい一年ではありましたが、そんな中でも、山中伸弥氏のノーベル生理学・医学賞受賞、また、スポーツ界では、ロンドンオリ

ンピックにおいて、日本選手団が各種目において優秀な成績を残し、国民に夢と希望、そして、大きな感動を与えてくれました。身近な明るい話題と致しましては、本村出身のメンバーも所属するSoft-Shareというダンスチームがアメリカ・ラスベガスで行われた世界大会において、見事、世界一という栄冠を勝ち取り、本村の児童生徒の力を身に染みて感じました。今後とも各分野で尚一層のご活躍を期待するものであります。

本村議会活性化の取り組みとして、「議会基本条例」に基づき、議会報告会・地域懇談会を平成22年から現在も継続して実施しております。これからも議員個人々の資質の向上はもちろんのこと、村民に身近な議会を目指し、積極的な議会活動を展開して参ります。

結びに、今年も地方自治の本旨に基づき多くの村民の声を村政に反映できるよう、村政発展のため努力して参りたいと思っております。村民各位の尚一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

謹賀新年



読谷村議会

- 議長 新垣 修幸
- 副議長 照屋 清秀
- 議員 知花 徳榮
- 比嘉 郁也
- 仲宗根盛良
- 伊波 篤
- 當山 勝吉
- 大城 行治
- 當間 良史
- 上地利枝子
- 山城 正輝
- 城間 勇
- 嘉手苺林春
- 津波古菊江
- 山内 政徳
- 長濱 宗則
- 上地 榮
- 伊佐 眞武
- 國吉 雅和
- 知花 俊治
- 山内 明秀

- 事務局次長 山内 明秀